



地域連携だより



地域医療の確保に向けて

事務長 高橋 則夫

令和2年4月に県立中央病院の事務長に就任いたしました高橋と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。

3月までは病院局業務課に在籍していましたが、2月頃からは、新型コロナウイルスの拡大による全国的なマスクや手袋、ガウンなどの医療材料不足により、中央病院をはじめ県立病院でも入手困難な状況に陥りました。納入業者への働きかけや代替品の確保など、どこの医療機関におかれても苦労されたと思いますが、綱渡りのような時期もありました。

そのような状況での赴任となり、4月には上越地域においても新型コロナウイルスの感染が確認され、患者さんの受入体制の整備に取り組むこととなりました。現在は、上越地域を含め新潟県内は比較的落ち着いていますが、秋から冬にかけてはインフルエンザの流行などと併せ、予断を許さない状況にあると思われる。

新型コロナウイルスの発生は、改めて地域の医療について考えるきっかけとなったのではないのでしょうか。折しも、人口減少や団塊世代の高齢化など社会情勢の変化に対応した医療提供体制を確保するための地域医療構想の検討や、それとも関連する県立病院の役割・あり方の検討などが進められているところです。いずれにしても、地域に必要な医療提供体制を確保していくためには、地域の医療機関、福祉施設などの一層の連携・協力が不可欠であり、日ごろから顔の見える関係を構築する地域連携の取組が重要であると思います。関係機関の皆様と力を合わせ、そうした取組を進めてまいりたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。



院内紹介①



皮膚科



部長

原 寛

令和2年4月1日より勤務している原 寛と申します。これまで富山大学附属病院に10数年在籍していましたが、地域医療に貢献したいとの思いで今回赴任して参りました。

当院皮膚科では、虫刺され、足白癬、アトピー性皮膚炎、尋常性乾癬といった common disease の治療だけでなく、薬疹や蜂窩織炎、带状疱疹、水疱性類天疱瘡など幅広い疾患を対象に診療しています。また、基底細胞癌や有棘細胞癌、悪性黒色腫などの皮膚悪性腫瘍の治療も積極的に行っています。高齢化社会を迎えた今日において、今後も皮膚悪性腫瘍の発生が増加することが予想され、少しでも皆様のお役に立てればと考えています。

最後になりますが、昨年度まで新潟大学からの非常勤医師による診療体制でしたが、小生が常勤医となったことで、近隣の皮膚科開業医の先生方からだけでなく、内科の開業医の先生方からも沢山の患者様をご紹介頂ければ幸甚です。



院内紹介②

コロナ禍において看護部にできること

看護部長 若井 麗子



私は今年4月から県立中央病院に勤務となり、新型コロナウイルス感染症でスタートし、現在も進行形で多くの時間を費やしています。病院はこれまで通り高度急性期医療を提供しつつ、コロナウイルス感染症の患者さんの受け入れも同時に行っています。上越地域でコロナの陽性患者さんが発生すると、濃厚接触者を含めどの程度の入院受け入れが必要なのか、常に予測と試算が必要です。

当院の看護部は感染管理看護師を中心に各部署のリンクナースが感染防御対策の徹底を職員に周知し、マスクやガウンのつけ方、取り外し方などを細かく指導しています。自分の身が守れないと院内感染を引き起こすばかりでなく、家族や友人への感染も引き起こします。ひとり一人が責任をもって感染防御に当たる、これが当院看護部の最大の課題であり、責務です。またコロナ陽性患者さんの入院受け入れのための病床確保や重症患者の受け入れ態勢も、想定内で対応できるよう訓練しています。どのような疾患でも患者さんご家族にとって安心して、受診や入院ができるよう態勢を常に整えていきたいと思っております。

通年であれば、新人看護師研修や卒後研修のまっただ中ではありますが、多くの研修は中止やリモート研修への変更となりました。いつもと違う研修様式となり研修者同士のつながりを作れないまま、年度前半が終わろうとしています。

また地域の皆様と交流する機会も少なく、顔の見える連携という点では不安が残ります。このような状況下でも患者さんとのつながり、地域とのつながりを大切にしながら看護の提供に努めて参りたいと思っております。今後ともご指導くださいますようお願いいたします。



～ 様々な分野で活躍している専門・認定看護師の紹介連載 ～

がん放射線療法看護認定看護師

内田 絵里奈 看護師

みなさん、はじめまして。がん放射線療法看護認定看護師の内田です。

私がこの分野の認定看護師を目指したのは、専門知識を身につけ、放射線治療を受ける患者さんの身体症状の予防や緩和、精神面への支援をしたいという思いからでした。

放射線療法はがん治療の4本柱（手術療法、放射線療法、薬物療法、免疫療法）の一つです。しかし、放射線治療自体のこと、治療効果や副作用についてはあまり知られていないと感じています。

まずは放射線治療がどのようなものか知ってもらうことが治療への第一歩だと考えています。患者さんやご家族に治療について知ってもらい、少しでも不安を軽減して治療を受けられるよう、また、治療を受けながら日常生活と治療の両立ができるよう多職種と連携して支援していきたいと思います。

当院は地域がん診療連携拠点病院であり、がん相談支援センターが併設されていますので、いつでもご相談ください。

お知らせ

新型コロナウイルス感染予防のため、来院の際は患者さん、付き添いの方に以下のご協力をお願いしております。

* マスク着用

* 来院前の検温

* 来院日に、37.5℃以上の発熱、咳、息苦しさ、倦怠感、臭覚・味覚異常等がある場合は来院前に外来に電話連絡をしてください



新潟県立中央病院 地域連携センター

電話（代表） 025-522-7711

FAX（直） 025-524-3232